

ES/1 NEO

MFシリーズ

V05L21R1

Release News Letter

IBMシステム

目次

【お知らせ】

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて
PC製品 サポート終了のお知らせ

【HOST】

資源使用量比較一覧

リリースニュースレター機能一覧 プロセッサ別 … 1

リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別 … 2

新規プロダクト … 3

MF-ADVISOR … 8

MF-DB2 … 10

MF-CICS … 12


MF-eASSIST … 13

【PC】

リリースニュースレター機能一覧 プログラム別 … 21

リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別 … 22

Performance Navigator … 23

 株式会社 アイ・アイ・エム

本リリースニュースレターは、V05L21R1 のリリース内容をまとめたものです。過去のリリース内容につきましては、プロダクトメディア (x:¥Rnl) 内のレターをご参照ください。

改版履歴

日付	版数	内容
2021/10/28	1	V5L21R1 リリース

ES/1 NEO MF シリーズのサポートについて

各バージョンの通常サポート期間はリリースより 30 ヶ月間です。

バージョンはバージョン、レベル、リビジョンからなり、レベルを基準とします。後継リビジョンのリリースに伴い、旧リビジョンのサポートは延長されます。



図. 製品ライフサイクルのイメージ

<バージョン（バージョン・レベル・リビジョン）の確認方法>

ES/1 実行ログにて確認できます。

例) V05L20R3 の場合

V 0 5 L 2 0 R 3
バージョン レベル リビジョン

```
LICENSEE ----- TRIAL USER
EXPIRATION DATE ----- 2020/11/30
VERSION/LEVEL/REVISION ---- 05.20.03
```

<今後のサポート予定>

今後のサポート期間について、お知らせします。

バージョン	リリース時期	サポート終了予定時期
V05L21R1	2021年10月	2024年4月
V05L20R3	2020年11月	2023年5月
V05L20R2	2019年11月	2023年5月
V05L20R1	2019年3月	2023年5月

<通常サポート中とサポート終了後の違い>

サポート終了後のバージョンも継続してご利用いただけます。

但し、不具合に対応した修正パッチは、最新リリースまたはサポート期間中のバージョンに対してのみの提供となります。サポート終了後のバージョンをご利用中に発生した不具合の対応については、原則として最新バージョンに対応した修正パッチを提供させていただきます。

	サポート期間中	サポート終了後
当該バージョンの継続使用	可	可
製品の使用方法に関するご質問	可	可
不具合発生時の調査	可	可※
不具合修正パッチの提供	可	不可

※ナレッジベースでの調査となります。

<バージョンアップのお願い>

通常サポート期間を終了したバージョンについては、限定的なサポートのみの提供となります。最新バージョンへのバージョンアップのご検討をお願いいたします。

以上

PC製品 サポート終了のお知らせ

現在、MF-eASSIST でサポートしています次のアプリケーションを、V05L21R1 (2021 年 10 月)にてサポート終了とさせていただきます。

<サポート終了アプリケーション>

Microsoft® Excel2010 / Word2010

また次のアプリケーションを、2022 年 7 月 31 日にてサポート終了とさせていただきます予定です。

<サポート終了アプリケーション>

Internet Explorer 8~11

V05L21R1 では、MF-eASSIST の対象環境は次の通りとなります。

<オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® 8.1

Microsoft® Windows® Server 2012

Microsoft® Windows® Server 2012 R2

Microsoft® Windows® 10

Microsoft® Windows® Server 2016

Microsoft® Windows® Server 2019

<アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013

Microsoft® Excel2016 / Word2016

Microsoft® Excel2019 / Word2019

Internet Explorer 8~11 (※2022 年 7 月 31 日まで)

Windows Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.5.2 以上

以上

ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R1 資源使用量比較一覧

本資料は、ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R1 と、以前のリリース (V05L20R3) との資源使用量比較一覧です。
各項目の意味は以下の通りです。

CPU	以前のリリースと比較し、CPU時間が1割以上増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
STG	以前のリリースと比較し、使用仮想記憶域が増加した量を示します。 この結果は、入力されるデータには関係ありません。 以前のリリースと比較し、上記本体の増分以上に使用仮想記憶域が増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。

		V05L20R3 vs V05L21R1		
		CPU	STG	
			本体 (KB)	データ
MF-ADVISOR	CPECNVRT	—	0	—
	CPEPRT00	—	0	—
	CMOSPRTO	●	0	●
	HIBICHKO	—	0	—
	CPEREG00	—	0	—
	SMFPRT00	—	0	—
	CPEDSNOO	—	0	—
	RAIDPRT0	—	0	—
	RAIDCNFO	—	0	—
	VOLLST00	—	0	●
CPEMQS00	—	0	—	
MF-MAGIC	CPEDBAMS	—	8	—
	BOXSYS00	—	0	—
	BOXWLC00	—	0	—
MF-SCOPE	JOBANLST	—	0	—
	JOBMONTH	—	0	—
	JOBDTL10	—	0	—
	AUDITPRT	—	0	—
	AUDITMON	—	0	—
MF-PREDICT	PNAVIA DT	—	0	—
	PRDIOS00	—	0	—
	CPEDSNOO	—	0	—
MF-AUDIT	CPEREG00	—	0	—
	AUDITPRT	—	0	—
	DSNCSV00	—	0	—
	AUDITMON	—	0	—
MFシリーズ 支援ライブラリ	PNAVIA DT	—	0	—
	CPEDASDO	—	0	—
	PAGPRT00	—	0	—
	CPEVOLGP	—	0	—
	CPETAPE0	—	0	—
	CPEVTS00	—	0	—
	CPEVSM00	—	0	—
	DSNCSV00	—	0	—
	TSSCSV00	—	0	—
	CPETS700	—	0	—
JOBDSNCV	—	0	—	
MF-eASSIST	PNAVIA DT	—	0	—
	PNAVICEC	●	0	●
	PNAVJOB0	—	0	—
	PNAVJOB1	—	0	—
	PNAVIVSP	—	0	—
	PNAVIMS	—	0	—
	PNAVIMSL	—	0	—
	PNAVICGS	—	0	—
	PNAVIVTS	—	0	—
	PNAVIVSM	—	0	—
	PNAVIB2	—	0	●
PNAVIA DT	—	0	—	
PNAVTS70	—	0	—	
PNCICSSST	—	0	—	
MF-ZVM	ZVMPT00	—	0	—
	ZVMCSV00	—	0	—
MF-WebSphere	CPEWAS00	—	0	—
MF-DB2	CPEDB200	●	0	—
	DB2TRCO0	—	0	—
MF-CICS	CICSPRTO	—	0	—
	CICSTRCO	—	0	—

※本体の使用仮想記憶域の増加が大きい場合、該当の箇所に色を付けて表示します。

例.	MF-ADVISOR	CPEPRT00	—	124	—
		CMOSPRTO	—	4	—

注意：(1) 本資料は弊社環境 (IBM環境) での結果に基づいています。環境により異なる場合がありますので、参考資料としてください。

(2) 実行時に仮想記憶領域不足が発生する場合、OVER16機能をご使用ください。

【OVER16機能 指定方法】実行するプロセッサのJCLに次のような指定を追加してください。

REGIONサイズの指定は、お客様の環境に応じて変更してください。

```

//SHELL EXEC PGM=CPESHELL, REGION=1024M, PARM=PARM          <=追加・変更
//SYSPPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 5))
//CPEPARM DD *                                               <=追加
OVER16=SYMBOL                                               <=追加
OSTYPE=#OSTYPE                                             <=追加
    
```

OVER16機能の詳細につきましては「ES/1 NEO MFシリーズ 使用者の手引き 共通編 (IBM / 富士通 / 日立システム)」
'3.3.2 OVER16機能'をご参照ください。

新規プロダクト

プロダクト	プログラム プロセジャ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
リアルタイム 分析機能	-	拡張	1	リアルタイム分析機能の概要						3	521-001
	CPEDBAMS	拡張	2	CPESMFDDプログラムの追加						4	521-002
		拡張	3	CPEDBAMSでのSMFデータセット入力						4	521-003
		拡張	4	CPEDBAMSにBACKTIME制御文を追加						5	521-004
		拡張	5	実行用サンプルJCLの追加						6	521-005
	Performance Navigator	拡張	6	推奨報告書テンプレートとグラフの追加					6	521-006	
MF-eASSIST	PNIMSFPO	拡張	7	PNIMSFPOプロセジャ					IMS V12~V15 DBFULTA0レポート	7	521-007

既存プロセジャ

プロダクト	プログラム プロセジャ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号	
MF-ADVISOR	CMOSPRTO	拡張	1	絶対値キャッピング情報のサポート			●		z/OS V2R1以降	8	521-010	
	VOLLST00	拡張	2	zEDC情報のサポート			●		z/OS V2R4以降	9	521-011	
MF-DB2	CPEDB200	拡張	3	OUTDRTMスイッチを追加				●		10	521-012	
	DB2TRC00	拡張	4	NETWORK-IDとLUNAMEを追加						11	521-013	
MF-CICS	CICSTRC0	拡張	5	NETWORK-IDを追加						12	521-014	
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	6	ディスクボリュームワーストn件に項目を追加				●		13	521-015	
		拡張	7	業務名の分割出力						13	521-016	
		拡張	8	テープ装置番号の5桁表示						z/OS V2R3以降	14	521-018
		拡張	9	絶対値キャッピング情報のサポート						z/OS V2R1以降	15	521-019
		変更	10	データがない場合のインターバル毎の出力を統一							15	521-020
	PNAVIVSP	拡張	11	zEDC情報のサポート					z/OS V2R4以降	17	521-022	
	PNAVIDB2	変更	12	データがない場合のインターバル毎の出力を統一							18	521-023
		不具合	13	先頭インターバルに異常値							19	521-024
		不具合	14	OUTDRTM指定時の最終インターバルのタイムスタンプに誤り							20	521-025

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

新規プロダクト

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
リアルタイム 分析機能	-	拡張	1	リアルタイム分析機能の概要						3	521-001
	CPEDBAMS	拡張	2	CPESMFDDプログラムの追加						4	521-002
		拡張	3	CPEDBAMSでのSMFデータセット入力						4	521-003
		拡張	4	CPEDBAMSにBACKTIME制御文を追加						5	521-004
		拡張	5	実行用サンプルJCLの追加						6	521-005
	Performance Navigator	拡張	6	推奨報告書テンプレートとグラフの追加						6	521-006
MF-eASSIST	PNMSFP0	拡張	7	PNMSFP0プロセッサ					IMS V12~V15 DBFULTA0レポート	7	521-007

既存プロセッサ

拡張一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号	
MF-ADVISOR	CMOSPR0	拡張	1	絶対値キャッピング情報のサポート			●		z/OS V2R1以降	8	521-010	
	VOLLST00	拡張	2	zEDC情報のサポート			●		z/OS V2R4以降	9	521-011	
MF-DB2	CPEDB200	拡張	3	OUTDRTMスイッチを追加				●		10	521-012	
	DB2TRC00	拡張	4	NETWORK-IDとLUNAMEを追加						11	521-013	
MF-CICS	CICSTRC0	拡張	5	NETWORK-IDを追加						12	521-014	
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	6	ディスクボリュームワーストn件に項目を追加				●		13	521-015	
		拡張	7	業務名の分割出力						13	521-016	
		拡張	8	テープ装置番号の5桁表示						z/OS V2R3以降	14	521-018
		拡張	9	絶対値キャッピング情報のサポート						z/OS V2R1以降	15	521-019
	PNAVIVSP	拡張	10	zEDC情報のサポート						z/OS V2R4以降	17	521-022

変更一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-eASSIST	PNAVICEC	変更	1	データがない場合のインターバル毎の出力を統一						15	521-020
	PNAVIB2	変更	2	データがない場合のインターバル毎の出力を統一						18	521-023

不具合一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-eASSIST	PNAVIB2	不具合	1	先頭インターバルに異常値						19	521-024
		不具合	2	OUTDRTM指定時の最終インターバルのタイムスタンプに誤り						20	521-025

◇表項目の説明

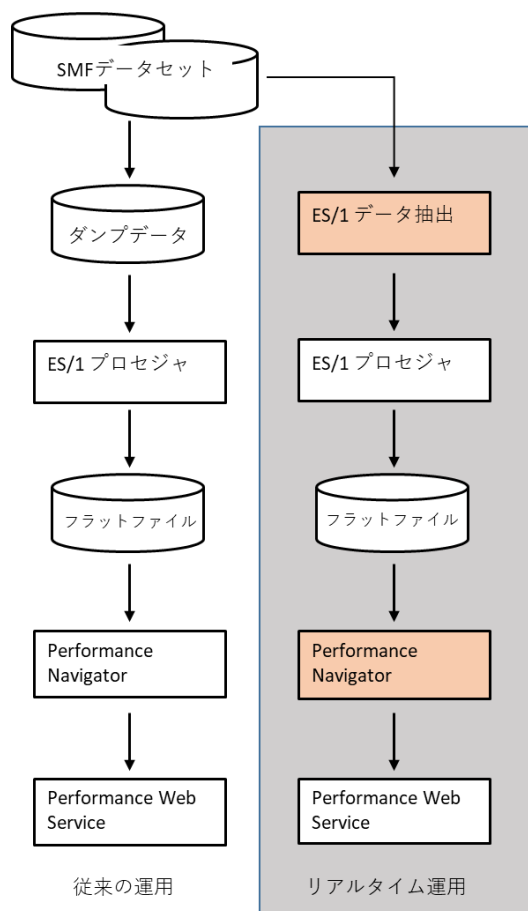
- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

リアルタイム分析機能のご紹介

521-001. リアルタイム分析機能の概要

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更 不具合	—	—	—	

収集中の SMF データセット (SYS1.MANx) から直接データを取得する機能を追加しました。これにより SMF ダンプ後の取得データにおいて、指定した直近データまでの分析が可能になります。(下図リアルタイム運用)



以下の処理を一定間隔で実行することにより、直近の状況を Performance Web Service 上で確認できます。

- ・ 収集中 (ACTIVE) の SMF データセットを検出し、現時刻から数分前までの直近データを抽出
- ・ 抽出したデータを入力としてレポートやグラフ作成用のフラットファイルを生成 (既存機能)
- ・ 管理用 PC に転送し、Performance Navigator でグラフ作成
- ・ 作成されたグラフを Performance Web Service に反映 (既存機能)

追加した各機能の詳細は次ページ以降の各項をご参照ください。

521-002. CPESMFDD プログラムの追加

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—

SMF 収集中の SMF データセットを特定し、後続の CPEDBAMS に引き渡す新規 REXX プログラム CPESMFDD を追加しました。これにより SMF ダンプをせず、直接アクティブな SMF データセットの情報を読み込むことができるようになります。

<CPESMFDD プログラム>

SMF データセット情報を取得し、実行時に収集中(アクティブ)であった SMF データセットを特定する。SMF データセット情報は外部データセットに記録する。

521-003. CPEDBAMS での SMF データセット入力

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—

SMF データセットから直接読み込みができるよう CPEDBAMS に REAL 制御文を追加しました。あらかじめシステムで定義されている SMF データセットを JCL の DD 文 (REALINx) に記述しておくことで、CPESMFDD が出力したデータセット情報をもとにアクティブな SMF データセットを入力とすることができます。

<サンプル JCL>

```
//*****
//*   REXX : GET ACTIVE SMF DS => PUT DD NAME (REALINX)   *
//*****
//REXX   EXEC PGM=IKJEFT01,REGION=4096K,PARM=' CPESMFDD'
//SYSTSIN DD DUMMY
//SYSTSPRT DD DISP=SHR,DSN=CPE.PARM (REALPARM)          <← 収集中 SMF データセットについての情報を出力
//SYSEXEC DD DISP=SHR,DSN=CPE.PARM
//*
//*****
//*   CPEDBAMS : GET ACTIVE SMF DATA                     *
//*****
//*
//CPEDBAMS EXEC PGM=CPEDBAMS,REGION=4096K,COND=(4,LT)
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//REALIN1 DD DISP=SHR,DSN=SYS1.XXXX.MAN1                <← 実行環境の SMF データセット名を REALINx で全て指定
//REALIN2 DD DISP=SHR,DSN=SYS1.XXXX.MAN2
//*
//* DATA BOX FOR REPORT
//OUTPUT1 DD DISP=MOD,DSN=OUTPUT.SMFDATA
//*OUTPUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5)),VOL=SER=XXXXXX,
//*          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),DSN=OUTPUT.SMFDATA
//SYSIN   DD   *
*
*          SELECT OUTPUT1,70-78,100,102,110
*          BACKTIME QUARTER
*
//          DD DISP=SHR,DSN=CPE.PARM (REALPARM)          <← 収集中のアクティブ SMF データセット情報を SYSIN で入力
//*
```

以下は CPESMFDD から渡される SMF データセット情報の例です。

JCL では最終行に DD 文として連結しています。

```
REAL REALIN1      <-- REAL制御文でアクティブなSMFデータセットのDD名を指定
READY
END
```

【追加した制御文】

```
REAL 入力 SMF データセット DD 名
```

【注意/制限事項】

- ・ CPESMFDD の出力をそのまま使用する場合、編集する必要はありません。
- ・ 手で指定する場合は以下の点にご注意ください。
 - 入力 DD に指定できるデータセットは VSAM データセットのみです。
 - 指定された DD 名が JCL 中不在の場合は異常終了します。

521-004. CPEDBAMS に BACKTIME 制御文を追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

指定した時間(分)だけ、CPEDBAMS が実行された時刻から遡って処理範囲を設定できる BACKTIME 制御文を追加しました。この制御文では指定された目的間隔で遡って、処理開始日時と処理終了日時を指定することができます。目的間隔はキーワードで指定してください。また、データが1分単位の累積値で差分計算が必要となる場合には、第二オペランドの ACCUM を指定してください。これは例えば DB2 (V10 以降)が出力する SMF が該当します。

【追加した制御文】

```
BACKTIME 目的間隔 [, ACCUM]
```

【目的間隔に指定できるキーワード】

- HOUR : 現在時刻を 60 分単位の丸め、そこから前 60 分間を対象とします
- HALF : 現在時刻を 30 分単位の丸め、そこから前 30 分間を対象とします
- QUARTER : 現在時刻を 15 分単位の丸め、そこから前 15 分間を対象とします
- TEN : 現在時刻を 10 分単位の丸め、そこから前 10 分間を対象とします
- FIVE : 現在時刻を 5 分単位の丸め、そこから前 5 分間を対象とします

【注意/制限事項】

- ・ RANGE 文との併用は不可です。両方の制御文が記述された場合、後から記述された方の機能が有効になります。
- ・ DATE 文/TIME 文/ZONE 文との併用も不可です。それらと同時に記述された場合は既存の RANGE 文の挙動に準じます。

521-005. 実行用サンプル JCL の追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

リアルタイム分析機能の推奨フラットファイルやレポートを出力できるサンプル JCL を追加しました。ライブラリ CPE.PARM に格納しています。この JCL を定期的に行うことにより、直近のパフォーマンス情報が取得できます。

【追加した実行用サンプル JCL】

- ・ JCLREAL00 RMF/SMF (CIGS, DB2) のフラットファイルとレポート作成
- ・ JCLREAL0F RMF/SMF (CIGS, DB2) のフラットファイル作成
- ・ JCLREAL0R RMF/SMF (CIGS, DB2) のレポート作成
- ・ JCLREAL70 RMF のフラットファイルとレポート作成
- ・ JCLREAL7F RMF のフラットファイル作成
- ・ JCLREAL7R RMF のレポート作成

521-006. 推奨報告書テンプレートとグラフの追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

PerformanceNavigator にリアルタイム分析機能に関する推奨テンプレートと標準グラフを追加しました。これらを定期的に行うことにより、直近のパフォーマンス情報を視覚化できます。テンプレートやグラフの一覧はレター項番 521-030 と 521-031 でご紹介しています。

PNIMSFP0プロセッサのご紹介

521-007. PNIMSFP0 プロセッサ

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	IMS V12~15、DBFULTA0 レポート

IBMのオンラインサブシステムIMSのユーティリティ“DBFULTA0”レポートをフラットファイル形式で出力するPNIMSFP0プロセッサを追加しました。実行用サンプルJCLはライブラリCPE.PCGMに格納しています。

このプロセッサでは2種類のレコードを出力します。出力したフラットファイルは、Performance Navigator にインポートしてグラフ化することができます。

【出カレコード】

- ・ IMS FP トランザクション毎の通過時間 (レコード名: IMSFP_RSP)
- ・ IMS FP トランザクションまたはPSB毎のリソース使用量と競合 (レコード名: IMSFP_CNT)

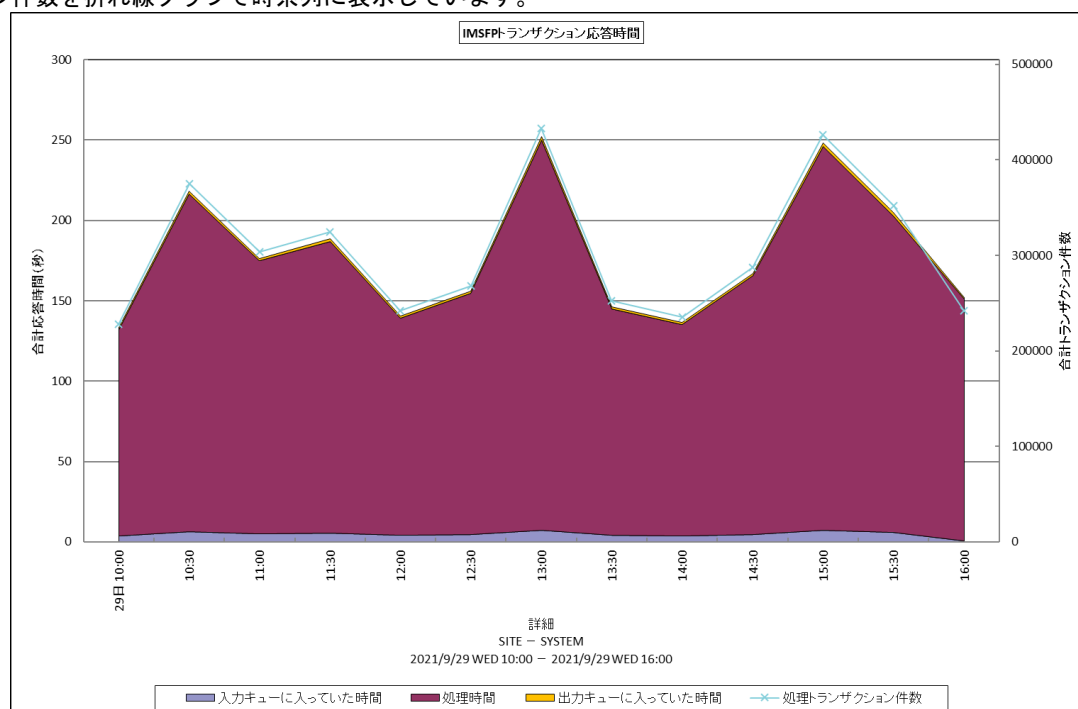
【グラフ化について】

フラットファイルをPerformance Navigator にインポートし、標準グラフやExtension Graph機能で任意のグラフを作成することが可能です。標準グラフの一覧はレター項番521-032でご紹介しています。

また、標準グラフの見方やチェックポイントについては、ES/1 NEO MF シリーズプロダクトマニュアル「Performance Navigator 出力結果解説書」をご参照ください。ここでは、代表的な標準グラフを1つご紹介します。

【IMSFP トランザクション応答時間】

このグラフでは、IMSFP トランザクション全体のトランザクション応答時間の内訳を積み上げグラフ、トランザクション件数を折れ線グラフで時系列に表示しています。



MF-ADVISOR

CMOSPRT0

521-010. 絶対値キャッピング情報のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	●	—	z/OS V2R1 以降

絶対値キャッピング情報に対応しました。次のレポートを拡張し、該当項目を表示するようにしました。またレポートに出力する項目位置の調整や項目名の整理を行い、拡張記憶の項目を削除しました。

【対象レポート】

- ・ 環境レポート (SSW02)

【追加項目】

- ・ HCP : CP コア数による絶対値キャッピングの使用の有無
- ・ HCPLIM : CP コア数の絶対制限値(コア数単位)
- ・ HCP : グループでの CP コア数による絶対値キャッピングの使用の有無
- ・ HCPLIM : グループでの CP コア数の絶対制限値(コア数単位)

【環境レポート (SSW02)】

<V05L20R3>

```

(C) I I M CORP. 1987-2020      EXPERT SYSTEM / ONE      *** SYSPLEX CONFIGURATION REPORT ***      CMOSPRT0 5
PSW=SSW02                      --- ENVIRONMENT AND HARDWARE REPORT ---      VER=05 LVL=20

SYSPLEX = IIMPLX

----- PROCESSOR -----      STORAGE -----      -I/O SUBSYSTEM- ---DURATION---
SYSID  SYSNAME  RELEASE  MONITOR  TYPE  VR  CP  SERIAL  SU_SEC  VALUE  LPAR  CENTRAL  EXPANDED  MODE  #CHL  #LCU  #DASD  #INT  HH:MM:SS
SOW1  SOW1      ZV020400  RMF      796  1090  D3   3  021325  1167.12500  IBMSYS1  32.8(GB)  0(MB)  ESAME  2  ....  ....  12  02:59:59

- PR/SM CONFIGURATION -

TYPE  VR  LPARNAME  MODE  WEIGHT  #CP  CAP  LIMIT1  LIMIT2  CLUSTER  SYSNAME  MSU_DEF  GROUP  MSU_GRP  WLM  CS(MB)  ES(MB)  SMT
1090  D3  IIMSYS1  NO     950    3  NO  100.00  100.00  .....  .....  N/A  .....  N/A      0     0  0 ...
PHYSICAL  NO     0     3  NO   0.00   0.00  .....  .....  N/A  .....  N/A      0     0  0 ...

TOTAL_          950    3   100.00  100.00  .....  .....  N/A      0     0
#PHYSICAL =    3  LOG/PHY RATIO = 1.0
    
```

<V05L21R1>

```

(C) I I M CORP. 1987-2021      EXPERT SYSTEM / ONE      *** SYSPLEX CONFIGURATION REPORT ***      CMOSPRT0 5
PSW=SSW02                      --- ENVIRONMENT AND HARDWARE REPORT ---      VER=05 LVL=21

SYSPLEX = IIMPLX

----- PROCESSOR -----      STORAGE -----      -I/O SUBSYSTEM- ---DURATION---
SYSID  SYSNAME  RELEASE  MONITOR  TYPE  VR  CP  SERIAL  SU_SEC  VALUE  LPAR  CENTRAL  EXPANDED  MODE  #CHL  #LCU  #DASD  #INT  HH:MM:SS
SOW1  SOW1      ZV020400  RMF      796  1090  D3   3  021325  1167.12500  IBMSYS1  32.8(GB)  0(MB)  ESAME  2  ....  ....  16  03:59:59

- PR/SM CONFIGURATION -

----- LPAR GROUP -----
TYPE  VR  LPARNAME  MODE  WEIGHT  #CP  CAP  LIMIT1  LIMIT2  HCP  HCPLIM  MSU  CLUSTER  SYSNAME  NAME  HCP  HCPLIM  MSU  WLM  CS(MB)  SMT
1090  D3  IIMSYS1  NO     950    3  NO  100.00  100.00  YES  1.49  N/A  .....  .....  .....  YES  1.00  N/A  0 ...
PHYSICAL  NO     0     3  NO   0.00   0.00  NO   0.00  N/A  .....  .....  .....  NO   0.00  N/A  0 ...

TOTAL_          950    3   100.00  100.00  .....  .....  N/A      0
#PHYSICAL =    3  LOG/PHY RATIO = 1.0
    
```

VOLLST00

521-011. zEDC 情報のサポート

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	●	—
					z/OS V2R4 以降

IBM DCOLLECT に追加された zEDC 情報に対応しました。これに伴い、次のレポートに圧縮フォーマット識別を表す桁を追加しました。

【対象レポート】

- データセット情報レポート (SW02)

【追加項目】

- CT : 圧縮フォーマット識別

【データセット情報レポート (SW02)】

<V05L20R3>

(C) I I M CORP. 1987-2020 EXPERT SYSTEM / ONE ***** DATASET INFORMATION *****										VOLLST00 4	
PSW=SW02										VER=05 LVL=20	
DATASET NAME	VOLSER	DSORG	CREATE	EXPIRE	LAST	ALLOC (KB)	USE (KB)	2NDARY (KB)	EXT	BKLN	LRECL
IIM.SXTLIB.IEH	IIMIIM	PS	18/10/12	00/01/00	19/01/16	184601	91415	55336	4	800	80
IIM.USERG01.IIM.FLAT	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	21/03/15	326205	321114	27668	13	4004	4000
IIM.USERG01.IIM.JCL	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	21/03/15	11510	6087	5534	4	3120	80
IIM.USERG01.IIM.LOG	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	20/12/17	36909	35526	5534	9	1310	131
IIM.USERG01.IIM.XMIT	IIMIIM	PS	19/04/01	00/01/00	21/01/22	1051	1051	55336	1	3120	80
IIM.USERG01.AUO.IIMFLAT.#520	IIMIIM	PO	19/01/16	00/01/00	20/09/17	56000	52458	27668	3	3280	80
IIM.USERG01.XXXXXX	IIMIIM	PS	20/02/27	00/01/00	00/01/00	55336	0	55336	1	1024	1024
SYS1.VTOCIX.IIMIIM	IIMIIM	PS	18/04/26	00/01/00	00/01/00	166	166	0	1	2048	2048

<V05L21R1>

(C) I I M CORP. 1987-2021 EXPERT SYSTEM / ONE ***** DATASET INFORMATION *****										VOLLST00 4		
PSW=SW02										VER=05 LVL=21		
DATASET NAME	VOLSER	DSORG	CREATE	EXPIRE	LAST	ALLOC (KB)	USE (KB)	2NDARY (KB)	EXT	BKLN	LRECL	CT
IIM.SXTLIB.IEH	IIMIIM	PS	18/10/12	00/01/00	19/01/16	184601	91415	55336	4	800	80	N
IIM.USERG01.IIM.FLAT	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	21/03/15	326205	321114	27668	13	4004	4000	T
IIM.USERG01.IIM.JCL	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	21/03/15	11510	6087	5534	4	3120	80	N
IIM.USERG01.IIM.LOG	IIMIIM	PO	18/06/08	00/01/00	20/12/17	36909	35526	5534	9	1310	131	G
IIM.USERG01.IIM.XMIT	IIMIIM	PS	19/04/01	00/01/00	21/01/22	1051	1051	55336	1	3120	80	N
IIM.USERG01.AUO.IIMFLAT.#520	IIMIIM	PO	19/01/16	00/01/00	20/09/17	56000	52458	27668	3	3280	80	N
IIM.USERG01.XXXXXX	IIMIIM	PS	20/02/27	00/01/00	00/01/00	55336	0	55336	1	1024	1024	N
SYS1.VTOCIX.IIMIIM	IIMIIM	PS	18/04/26	00/01/00	00/01/00	166	166	0	1	2048	2048	N

【注意/制限事項】

- SMSSW=1 が指定された場合は対象外です。

MF-DB2

CPEDB200

521-012. OUTDTRM スイッチを追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	-	-	●	

DB2 V10以降、SMFに書き出されるレコードは1分単位で固定です。これまでCPEDB200プロセッサではそのインターバルのままレポート出力していました。今リリースから、指定した時間でインターバルを集約して出力できるOUTDTRMスイッチを追加しました。

【追加したスイッチ】

OUTDTRM =

【指定できる値】

- 60 : インターバルを60分に集約します
- 30 : インターバルを30分に集約します
- 15 : インターバルを15分に集約します
- 10 : インターバルを10分に集約します
- 5 : インターバルを5分に集約します

【バッファ・プール詳細レポート(SW021)】

<V05L21R1> ※5分単位に集約

HHMM		USE	SR/GP	HIT	GETPAGE	READ	WRITE	SEQ	LIST	DYN	BUFF	PAGE	UPDATE	READ	WRITE	POOL	DMTH	SPTH	DWQT	VDWQT
		(%)	(%)	(%)	/SEC	/SEC	/SEC	/SEC	/SEC	/SEC	UPDAT/S	WRITN/S	/WRITN	/SEC	/SEC	FULL	CNT	CNT	CNT	CNT
0600	0605	4.2	0.0	100.0	0.04	0.00	0.02	0.0	0.0	0.0	0.02	0.05	0.50	0.0	0.0	0	0	0	0	0
0610	0615	4.1	0.0	100.0	0.01	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0	0	0	0	0
0610	0615	4.0	0.0	100.0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.01	0.50	0.0	0.0	0	0	0	0	0
0615		4.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0	0	0	0	0

DB2TRC00

521-013. NETWORK-ID と LUNAME を追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

DB2 と CICS の関連付けを行うため、両者を紐づける次の項目を出力するように拡張しました。この拡張に伴うパラメータの追加はありません。

【対象項目】

- ・ NETWORK-ID : ネットワーク ID
- ・ LUNAME : LU 名

【追加項目】

項番	長さ	形式	ヘッダ名	説明
57	8	文字列	NETWORK	ネットワーク ID
58	8	文字列	LUNAME	LU 名

MF-CICS

CICSTRC0

521-014. NETWORK-ID を追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

DB2 と CICS の関連付けを行うため、両者を紐づける次の項目を出力するように拡張しました。この拡張に伴うパラメータの追加はありません。

【対象項目】

- NETUOWPX : 起点システムを認識するときの完全修飾名

【追加項目】

項番	長さ	形式	ヘッダ名	説明
16	8	文字列	NETUOWPX	ネットワークの作業単位 ID を認識するための名前 (先頭 8 バイト)
17	8	文字列	NETUOWPX	ネットワークの作業単位 ID を認識するための名前 (後方 8 バイト)

MF-eASSIST

PNAVICEC

521-015. ディスクボリュームワースト n 件に項目を追加

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	●	—

ディスクボリュームワースト n 件レコードに、より詳細な項目を出力できるようにするオペランドを%PNMISC マクロに追加しました。

【追加オペランド】

```
%PNMISC VOLEX =
```

VOLEX = YES : ディスクボリュームワースト n 件に項目を追加する (省略値)
= NO : ディスクボリュームワースト n 件に項目を追加しない

【対象項目】

【ディスクボリューム(ワースト N 件)】レコード名: VOL

フィールド名	説明
PEND_AVG	平均ペンディング時間(ミリ秒)
WAIT_CUB_AVG	平均制御装置待ち時間(ミリ秒)
WAIT_IOP_AVG	平均チャンネル・バス待ち時間(ミリ秒)
WAIT_DIS_AVG	平均ディスコネクト時間(ミリ秒)
WAIT_CNN_AVG	平均コネクト時間(ミリ秒)
PEND_MAX	最大ペンディング時間(ミリ秒)
WAIT_CUB_MAX	最大制御装置待ち時間(ミリ秒)
WAIT_IOP_MAX	最大チャンネル・バス待ち時間(ミリ秒)
WAIT_DIS_MAX	最大ディスコネクト時間(ミリ秒)
WAIT_CNN_MAX	最大コネクト時間(ミリ秒)

521-016. 業務名の分割出力

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	—

特定業務レコードのサービスクラス名を『ワークロード』と『サービスクラス名_ペリオッド』に分割し、後者の『サービスクラス名_ペリオッド』を新規フィールドとして追加しました。従来と比較し、グラフの凡例表示が見やすくなります。

【対象レコード】

【特定業務】レコード名: WKL_TRC

フィールド名	説明
WKLGPN	ワークロードグループ名
SRVKEY	サービスクラス名_ペリオッド

【特定業務(拡張)】レコード名: EX_WKL_TRC

フィールド名	説明
WKLGPB	ワークロードグループ名
SRVKEY	サービスクラス名_ペリオッド

【ゴールモード情報】レコード名: WKL_GM

フィールド名	説明
WKLGPB	ワークロードグループ名
SRVKEY	サービスクラス名_ペリオッド

【ゴールモード情報[応答時間分布]】レコード名: GOAL_DSTR

フィールド名	説明
WKLGPB	ワークロードグループ名
SRVKEY	サービスクラス名_ペリオッド

【ゴールモード情報Ⅱ】レコード名: WKL_GM2

フィールド名	説明
WKLGPB	ワークロードグループ名
SRVKEY	サービスクラス名_ペリオッド

521-018. テープ装置番号の5桁表示

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R3 以降

z/OS V2R3 以降の場合、ディスクボリュームは5桁表示で出力していました。今リリースからテープ装置も5桁で出力するように拡張しました。1桁目はサブチャネル・セット ID、2~5桁は装置番号を表します。この拡張によるパラメータの追加はありません。

【対象レコード】

【テープマウント状況】レコード名: TAPE_MOUNT

フィールド名	説明
DEVADDR	デバイスアドレス

521-019. 絶対値キャッピング情報のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R1 以降

絶対値キャッピング情報に対応しました。この拡張によるパラメータの追加はありません。

【対象レコード】

【MSU(z/OS)】レコード名：ZOS_MSU ※説明の変更

フィールド名	説明
GAP	プロセッサ使用制限機能の使用の有無 ↓ H/W キャッピングの使用の有無

【PR/SM[xxx]】レコード名：PRSM_XXX ※XXXにはCP, ICF, IFL, IIPのいずれかが入る

フィールド名	説明の変更
GCAP_NAME	キャパシティ・グループ名
HCP	絶対値キャッピングの使用の有無
HCPLIM	絶対値キャッピングの限界値[コア数]
HCPLIM_PER	絶対値キャッピングの限界値[使用率換算]
GHCP	グループ・絶対値キャッピングの使用の有無
GHCP_LIM	グループ・絶対値キャッピングの限界値[コア数]
GHCP_LIM_PER	グループ・絶対値キャッピングの限界値[使用率換算]

521-020. データがない場合のインターバル毎の出力を統一

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

入力に対象データがない場合、フラットファイルにはゼロか欠損値のいずれかを出力します。しかし先頭インターバルとその後のインターバルで異なる値を出力していました。今リリースからその基準を定め、出力を統一しました。

【対象項目】

【業務】レコード名：WKL

フィールド名	説明	データがない場合
RESP_AVG	平均応答時間(秒)	データがない場合 ゼロで出力
MPL_AVG	平均システム資源利用状況(MPL)	
TCB_AVG	平均システム資源利用状況(TCB%)	
MEM_AVG	平均システム資源利用状況(メモリ使用率%)	
RESP_CPU_AVG	平均応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_AVG	平均応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_AVG	平均応答時間内訳(I/O)(秒)	
RESP_MAX	最大応答時間(秒)	
MPL_MAX	最大システム資源利用状況(MPL)	
TCB_MAX	最大システム資源利用状況(TCB%)	
MEM_MAX	最大システム資源利用状況(メモリ使用率%)	
RESP_CPU_MAX	最大応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_MAX	最大応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_MAX	最大応答時間内訳(I/O)(秒)	

【業務サブグループ】レコード名：WKL_SUB

フィールド名	説明	データがない場合
RESP_AVG	平均応答時間(秒)	データがない場合 ゼロで出力
MPL_AVG	平均システム資源利用状況(MPL)	
TCB_AVG	平均システム資源利用状況(TCB%)	
MEM_AVG	平均システム資源利用状況(メモリ使用率%)	
RESP_CPU_AVG	平均応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_AVG	平均応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_AVG	平均応答時間内訳(I/O)(秒)	
RESP_MAX	最大応答時間(秒)	
MPL_MAX	最大システム資源利用状況(MPL)	
TCB_MAX	最大システム資源利用状況(TCB%)	
MEM_MAX	最大システム資源利用状況(メモリ使用率%)	
RESP_CPU_MAX	最大応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_MAX	最大応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_MAX	最大応答時間内訳(I/O)(秒)	

【特定業務】レコード名：WKL_TRC

フィールド名	説明	データがない場合
RESP_AVG	平均応答時間(秒)	データがない場合 ゼロで出力
MPL_AVG	平均システム資源利用状況(MPL)	
TCB_AVG	平均システム資源利用状況(TCB%)	
RESP_CPU_AVG	平均応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_AVG	平均応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_AVG	平均応答時間内訳(I/O)(秒)	
RESP_MAX	最大応答時間(秒)	
MPL_MAX	最大システム資源利用状況(MPL)	
TCB_MAX	最大システム資源利用状況(TCB%)	
RESP_CPU_MAX	最大応答時間内訳(CPU)(秒)	
RESP_SWAP_MAX	最大応答時間内訳(SWAP OUT)(秒)	
RESP_IO_MAX	最大応答時間内訳(I/O)(秒)	

PNAVIVSP

521-022. zEDC 情報のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R4 以降

IBM DCOLLECT に追加された zEDC 情報に対応しました。これに伴い、次のレコードに圧縮フォーマット識別を表すフィールドを追加しました。

【対象レコード】

【未参照データセット情報】レコード名：VSPC_NOREF

フィールド名	説明
COMPTYP	圧縮フォーマット識別

PNAVIDB2

521-023. データがない場合のインターバル毎の出力を統一

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

入力に対象データがない場合、フラットファイルにはゼロか欠損値のいずれかを出力します。しかし先頭インターバルとその後のインターバルで異なる値を出力していました。今リリースからその基準を定め、出力を統一しました。

【対象項目】

【DB2 DDF(グローバル)】レコード名：DB2_DDF_GBL

フィールド名	説明	データがない場合
ACT	アクティブな DBAT の最高水準点	ゼロで出力
INACT_1	非アクティブな DBAT の最高水準点_1	
INACT_2	非アクティブな DBAT の最高水準点_2	

【DB2 SQL 統計】レコード名：DB2_SQL

フィールド名	説明	データがない場合
SELCT	SELECT ステートメント実行数	ゼロで出力
INSER	INSERT ステートメント実行数	
UPDAT	UPDATE ステートメント実行数	
DELET	DELETE ステートメント実行数	
PREPR	PREPARE ステートメント実行数	
OPEN1	OPEN ステートメント実行数	
CLOSE	CLOSE ステートメント実行数	
FETCH	FETCH ステートメント実行数	
DSCRIB	DESCRIBE ステートメント実行数	
DSTBL	DESCRIBE TABLE ステートメント実行数	
ITS	直接行アクセスの代わりに表スペース・スキャンを使用した回数	
IMAT	直接行アクセスを使用できた回数	
IIDX	直接行アクセスの代わりに索引を使用した回数	

【DB2 課金情報(2)】レコード名：DB2ACC2

フィールド名	説明	データがない場合
SELECTS	SELECT 実行回数	ゼロで出力
INSERTS	INSERT 実行回数	
UPDATES	UPDATE 実行回数	
DELETES	DELETE 実行回数	
DESCRIBE	DESCRIBE 実行回数	
DESCTBL	DESC TBL 実行回数	
PREPARE	PREPARE 実行回数	
OPENS	OPEN 実行回数	
FETCHES	FETCHE 実行回数	
CLOSES	CLOSE 実行回数	

【DB2 RID リスト処理】レコード名：DB2_RID

フィールド名	説明	データがない場合
SUCS	RID リスト処理使用数	ゼロで出力
EXCED	RID リスト処理不使用数	
TTLRID	RID リスト処理要求数(合計)	
RIDBLOCKS	RID 使用ブロック数の現在値	

【DB2 バッファプール統計】レコード名：DB2_BUF

フィールド名	説明	データがない場合
WEE	バッファプールの非同期書き込みが利用不能になった回数	欠損値で出力

521-024. 先頭インターバルに異常値

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の項目にて先頭インターバルに異常値が出力されていました。次インターバル以降は問題ありません。

<対象レコード>

【DB2 バッファプール統計】レコード名：DB2_BUF

フィールド名	説明	備考
LOGNAME	リモートロケーション名	30 文字以上の場合のみ
SQLS	リモートサーバに送られた SQL ステートメント数	
SQLR	リクエストロケーションから受信した SQL ステートメント数	

【原因】

PNAVIDB2 プロセッサでは、SMF レコードに記録されている累積値から前後インターバルの差分を取り、各インターバルの値としています。先頭インターバルのみ、その累積値へのオフセットを誤っていました。

【対処】

プロセッサを修正し、先頭インターバルでも正しいオフセットを参照するようにしました。

521-025. OUTDRTM 指定時の最終インターバルのタイムスタンプに誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

PNAVIDB2 で出力される統計情報レコードでは、タイムスタンプをインターバル開始時刻で出力しています。

しかし次の条件を全て満たす場合、最終インターバルのタイムスタンプを誤ってインターバル終了時刻で出力していました。

<発生条件>

- ・ SUBSET=YES または SPECIAL を指定
- ・ OUTDRTM パラメータを指定
- ・ 入力データの最終レコード時刻の『分』の値が、OUTDRTM で指定した値と一致する

【原因】

OUTDRTM 指定時の時刻処理に誤りがありました。

【対処】

プロセッサを修正し、正しいタイムスタンプ(インターバル開始時刻)を出力するようにしました。

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 プログラム別

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	推奨報告書テンプレートの追加	23	521-030
	拡張	2	リアルタイムグラフの追加	23	521-031
	拡張	3	IMS FP関連グラフの追加	25	521-032
	拡張	4	FCチャンネル使用率グラフの追加	26	521-033
	拡張	5	キャパシティ上限値削減におけるMSU使用値予測グラフの追加	27	521-035
	拡張	6	グループ・キャパシティ上限値削減におけるMSU使用値予測グラフの追加	28	521-036
	拡張	7	結合機構関連グラフの追加	29	521-037

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別

拡張一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	推奨報告書テンプレートの追加	23	521-030
	拡張	2	リアルタイムグラフの追加	23	521-031
	拡張	3	IMS FP関連グラフの追加	25	521-032
	拡張	4	FCチャンネル使用率グラフの追加	26	521-033
	拡張	5	キャパシティ上限値削減におけるMSU使用値予測グラフの追加	27	521-035
	拡張	6	グループ・キャパシティ上限値削減におけるMSU使用値予測グラフの追加	28	521-036
	拡張	7	結合機構関連グラフの追加	29	521-037

Performance Navigator(拡張)

521-030. 推奨報告書テンプレートの追加

Performance Navigator にリアルタイム分析機能用の推奨報告書テンプレートを追加しました。リアルタイム分析機能のグラフ群を作成する場合は、これらの推奨報告書テンプレートをご使用ください。

【追加した推奨報告書テンプレート】

- ・ リアルタイム (IBM) z/OS
- ・ リアルタイム (IBM) DB2
- ・ リアルタイム (IBM) CICS

【グラフ化について】

フラットファイルを Performance Navigator にインポートし、標準グラフや Extension Graph 機能で任意のグラフを作成することが可能です。追加した標準グラフの一覧はレター項番 521-031 に記載しています。

また、標準グラフの見方やチェックポイントについては、ES/1 NEO MF シリーズプロダクトマニュアル「Performance Navigator 出力結果解説書」をご参照ください。

521-031. リアルタイムグラフの追加

標準グラフに、リアルタイムグラフを追加しました。ホストから都度フラットファイルを受信しグラフ作成を行うことで、リアルタイムにパフォーマンスをご確認いただけます。

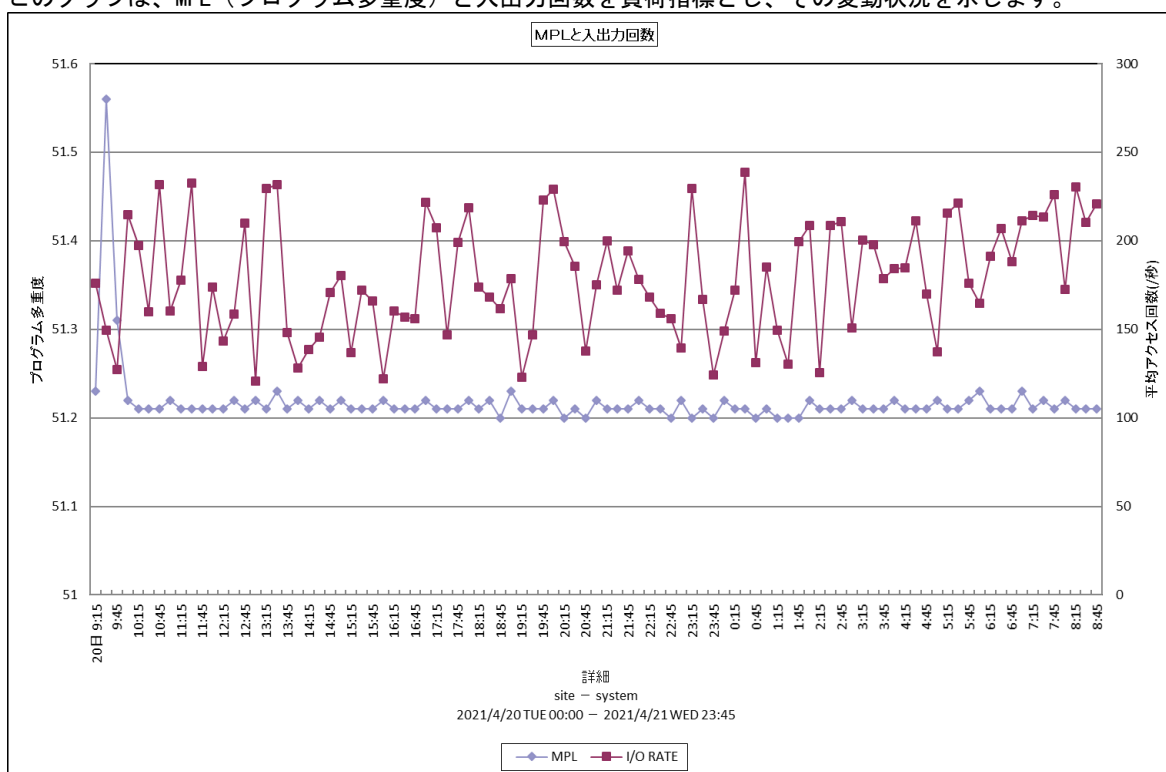
【追加グラフ】

システム負荷～MPLと入出力回数[リアルタイム]
論理分割プロセッサ使用率グラフ (TYPE=CP) [リアルタイム]
論理分割プロセッサ使用率グラフ (TYPE=IIP) [リアルタイム]
プロセッサ使用率[リアルタイム]
筐体全体の MSU 使用値[リアルタイム]
MSU 使用値内訳[リアルタイム]
ソフトキャッピングされた割合[リアルタイム]
主記憶使用率[リアルタイム]
仮想記憶利用状況 (使用率) [リアルタイム]
仮想記憶利用状況 (割当率) [リアルタイム]
CSA/ECSA を使用した SQA/ESQA 使用率[リアルタイム]
業務プロセッサ使用率[リアルタイム]
業務ストレージ使用率[リアルタイム]
業務毎のページイン回数[リアルタイム]
パフォーマンスインデックス[リアルタイム]
ワークフロー (プロセッサ待ち) [リアルタイム]
ワークフロー (ストレージ待ち) [リアルタイム]
ワークフロー (DASD 待ち) [リアルタイム]
チャンネル使用率[リアルタイム]
ボリューム毎の最大レスポンス時間 (アクセス回数順) TOP50 [リアルタイム]

ボリューム毎の最大レスポンス時間(レスポンス時間順)TOP50[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のパッファヒット率[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のEDM プールヒット率 (V10以降) _RDS_PT[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のEDM プールヒット率 (V10以降) _RDS_CT[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のEDM プールヒット率 (V10以降) _DBD[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のEDM プールヒット率 (V10以降) _STMT[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のタイムアウト数[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のデッドロック数[リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のエスカレーション数(共用) [リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のエスカレーション数(排他) [リアルタイム]
DB2 サブシステム毎のGETPAGE 要求数[リアルタイム]
CICS リージョン毎の合計トランザクション件数[リアルタイム]
CICS リージョン毎の平均応答時間[リアルタイム]
CICS リージョン毎の平均CPU時間[リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(DSA使用量) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(EDSA使用量) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(GDSA使用量) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(SUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のEDSA使用状況(SUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のGDSA使用状況(SUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(ページ) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のEDSA使用状況(ページ) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のGDSA使用状況(ページ) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(CUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のEDSA使用状況(CUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のGDSA使用状況(CUS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のDSA使用状況(SOS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のEDSA使用状況(SOS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のGDSA使用状況(SOS) [リアルタイム]
CICS リージョン毎のMXT 到達回数[リアルタイム]

【システム負荷～MPLと入出力回数[リアルタイム]】

このグラフは、MPL（プログラム多重度）と入出力回数を負荷指標とし、その変動状況を示します。



521-032. IMS FP 関連グラフの追加

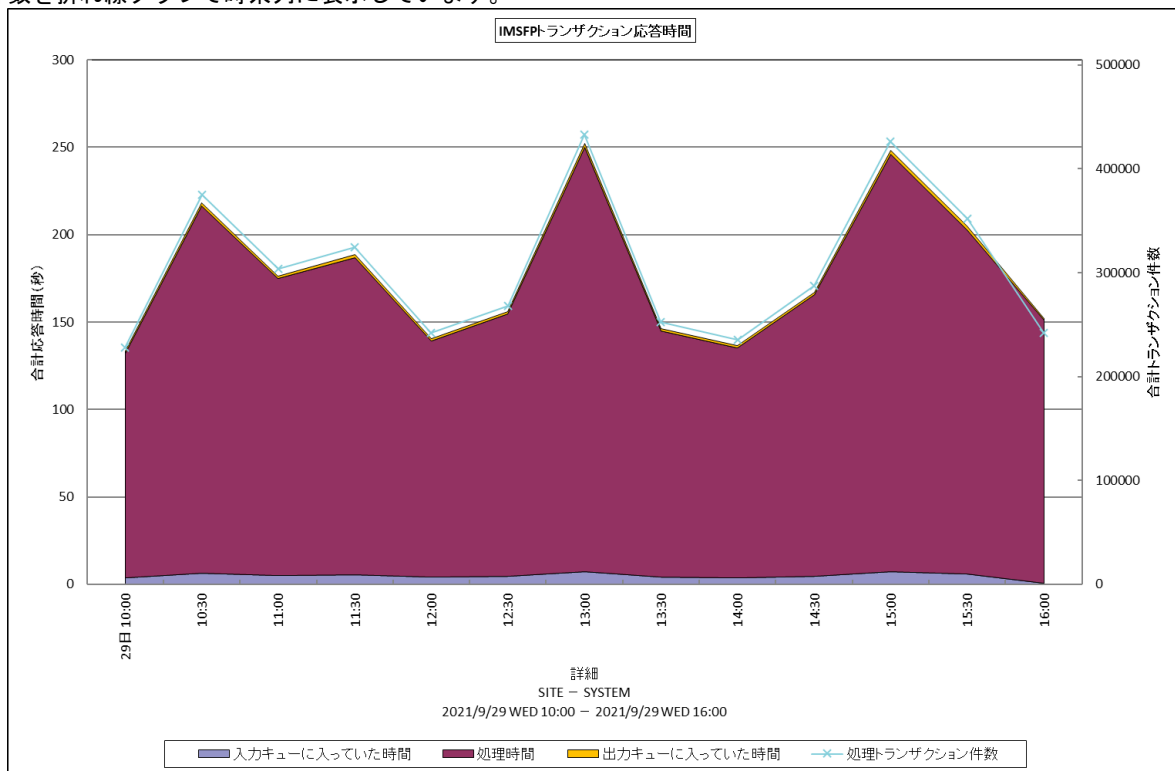
標準グラフに、IMS FP 関連グラフを追加しました。このグラフは新規追加プロセッサ PNIMSFP0 のフラットファイルで作成できます。

【追加グラフ】

IMSFP トランザクション応答時間[詳細]
IMSFP トランザクション稼働状況 TOP30(トランザクション件数順)
IMSFP トランザクション稼働状況 TOP30(応答時間順)
IMSFP トランザクション CI 競合数[詳細]
IMSFP トランザクション稼働状況 TOP30(CI 競合数順)

【IMSFP トランザクション応答時間】

このグラフは、IMS FP トランザクション全体のトランザクション応答時間の内訳を積み上げグラフ、トランザクション件数を折れ線グラフで時系列に表示しています。



521-033. FC チャンネル使用率グラフの追加

標準グラフに、FC(Fiber Channel)のチャンネルに関するグラフを追加しました。

【対象】

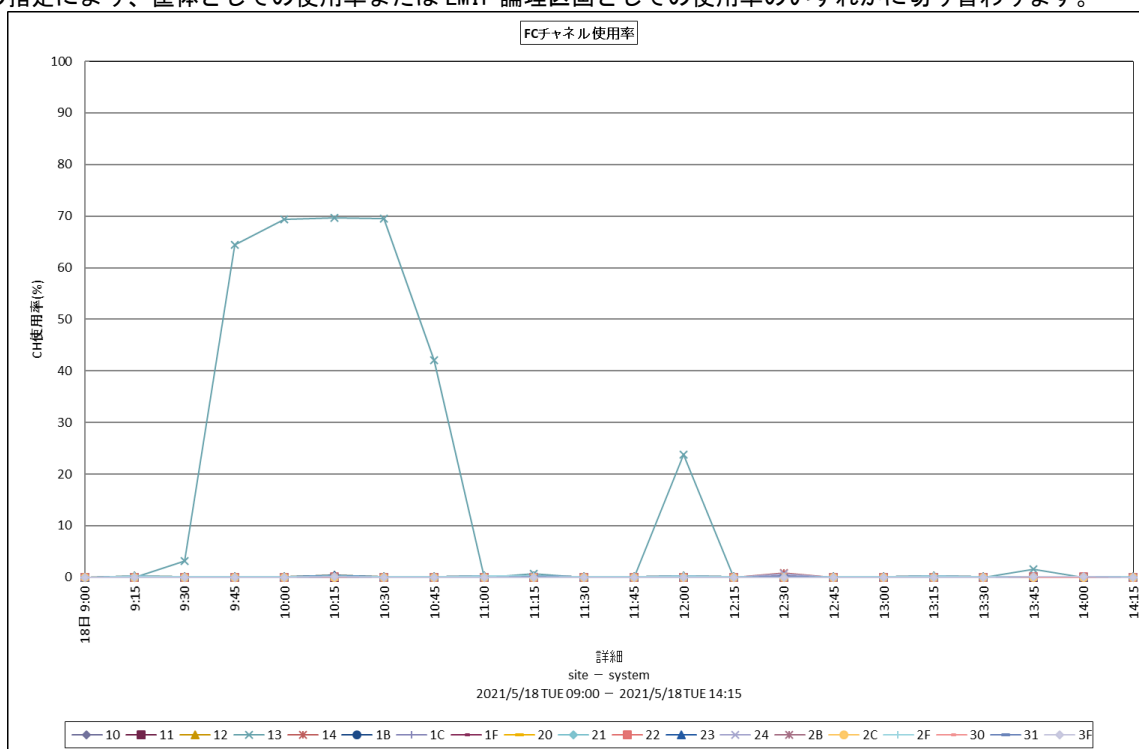
- ・ IBM : FICON チャンネル
- ・ MSP/XSP : FCLINK チャンネル

【追加グラフ】 ※[時系列]には詳細、時間、月次、年次のいずれかが入ります

FC チャンネル使用率[時系列]

【FC チャンネル使用率[詳細]】

このグラフは、指定した複数の FC チャンネルの使用率変動状況を示します。IBM の場合は JCL パラメータ EMIF スイッチの指定により、筐体としての使用率または EMIF 論理区画としての使用率のいずれかに切り替わります。



521-035. キャパシティ上限値削減における MSU 使用値予測グラフの追加

標準グラフに、キャパシティ上限値 (Defined Capacity 値:以後 DC 値) を削減した場合に MSU 使用値がどのように変化するかをシミュレートするグラフを追加しました。LPAR に設定されている現 DC 値に対して、シミュレートする新 DC 値を指定します。

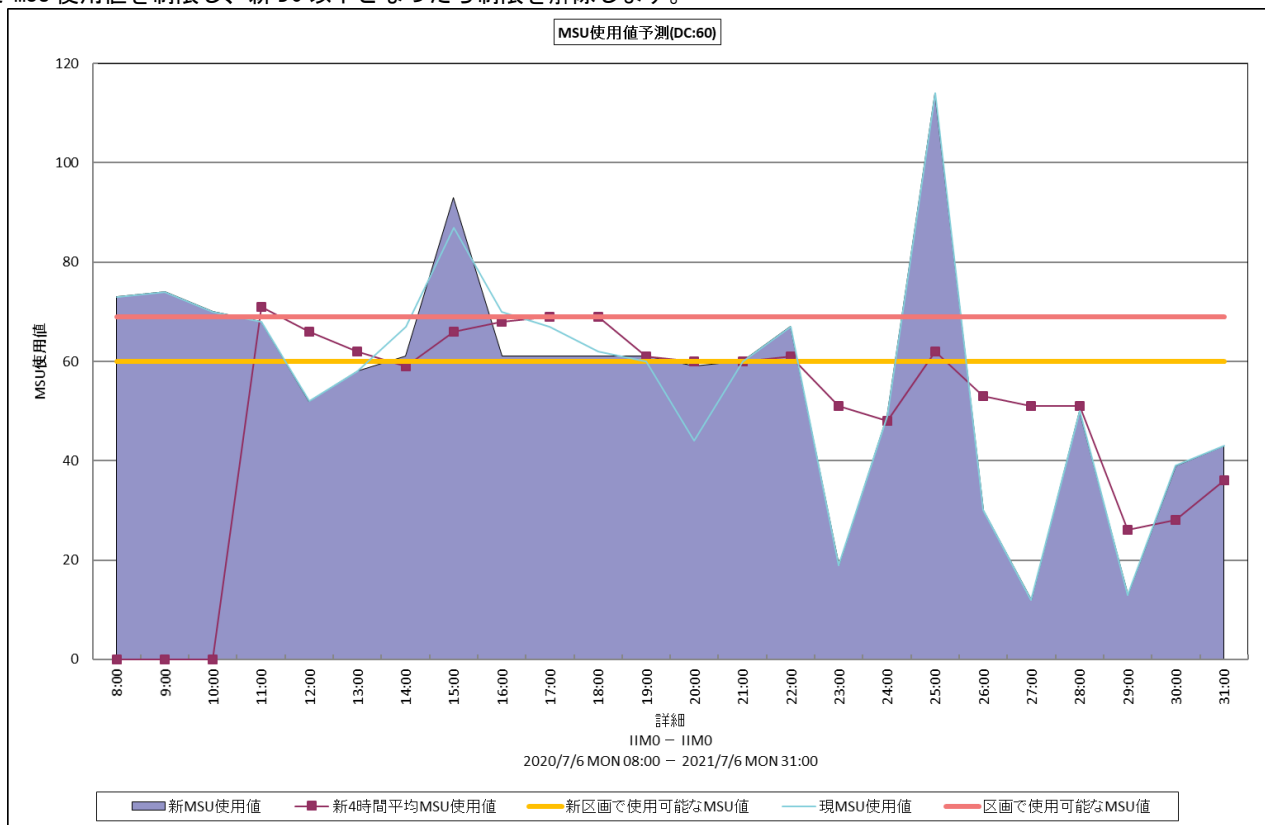
【追加グラフ】

MSU 使用値予測 DEFINED CAPACITY 値削減 [詳細]

【MSU 使用値予測 DEFINED CAPACITY 値削減 [詳細】

このグラフは、LPAR に設定されている Defined Capacity (以後 DC) 値を削減した際の MSU 使用予測を示します。削減予測に使用する新 DC 値はテンプレート設定時に指定します。(指定範囲: $0 < \text{新 DC} < \text{現 DC}$)

入力データ開始から 4 時間経過したインターバル以降、4 時間平均 MSU 値を算出し、値が新 DC 値を越えたら新 DC+1 まで MSU 使用値を制限し、新 DC 以下となったら制限を解除します。



【注意/制限事項】

- ・ 新 4 時間平均 MSU 値は入力データの 4 時間経過後から出力されます。
- ・ 欠損インターバルは考慮されません。(複数日処理する場合は、24 時間連続していないと正常な結果となりません。)
- ・ データ途中でのインターバル長変更は考慮されません。

521-036. グループ・キャパシティ上限値削減における MSU 使用値予測グラフの追加

標準グラフに、特定キャパシティ・グループのグループ・キャパシティ上限値(Group Capacity:以後 GC 値)を削減した場合に MSU 使用値がどのように変化するかをシミュレートするグラフを追加しました。特定キャパシティ・グループに設定されている現 GC 値に対して、シミュレートする新 GC 値を指定します。

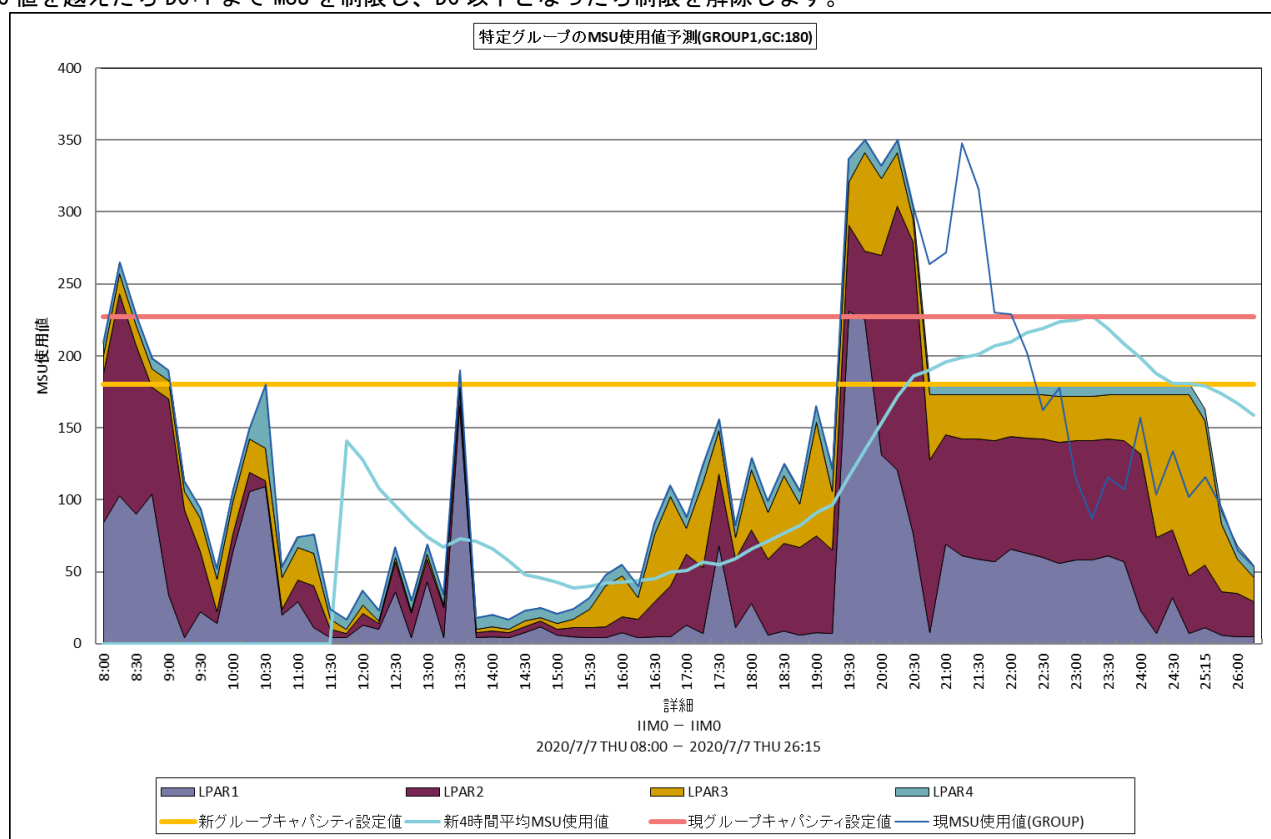
【追加グラフ】

特定グループの MSU 使用値予測 GROUP CAPACITY 値削減 [詳細]

【特定グループの MSU 使用値予測 GROUP CAPACITY 値削減 [詳細】

このグラフは、指定された LPAR グループに設定されている Group Capacity (以後 GC 値) を削減した際の MSU 使用予測を示します。削減予測に使用する新 GC 値はテンプレート設定時に指定します。(指定範囲: $0 < \text{新 GC} < \text{現 GC}$)

入力データ開始から 4 時間経過したインターバル以降、4 時間平均 MSU 値を算出し、値が新 GC 値を越えたら新 GC+1 まで MSU 使用を制限し、新 GC 以下となったら制限を解除します。グループでの MSU 使用は、グループを構成する LPAR の重み値によって按分されます。また、Defined Capacity 値 (以後 DC) が設定された LPAR では、LPAR の 4 時間平均 MSU 値が DC 値を越えたら DC+1 まで MSU を制限し、DC 以下となったら制限を解除します。



【注意/制限事項】

- ・ 新 4 時間平均 MSU 値は入力データの 4 時間経過後から出力されます。
- ・ 欠損インターバルは考慮されません。(複数日処理する場合は、24 時間連続していないと正常な結果となりません。)
- ・ データ途中でのインターバル長変更は考慮されません。

521-037. 結合機構関連グラフの追加

標準グラフに、結合機構に関するグラフを追加しました。

【追加グラフ】 ※[時系列]には詳細、時間、月次、年次のいずれかが入ります

結合機構：結合機構プロセッサ使用状況[時系列]
結合機構：結合機構ストレージ使用状況[時系列]
結合機構：結合機構ロックストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構ロックストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構ロックストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
結合機構：結合機構ロックストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]
結合機構：結合機構リストストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構リストストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構リストストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
結合機構：結合機構リストストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]
結合機構：結合機構キャッシュストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構キャッシュストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
結合機構：結合機構キャッシュストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
結合機構：結合機構キャッシュストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構プロセッサ使用状況[時系列]
複数システム：結合機構ストレージ使用状況[時系列]
複数システム：結合機構ロックストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構ロックストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構ロックストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構ロックストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構リストストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構リストストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構リストストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構リストストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構キャッシュストラクチャの同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構キャッシュストラクチャの非同期要求数(合計)[時系列]
複数システム：結合機構キャッシュストラクチャの同期要求サービス時間(平均)[時系列]
複数システム：結合機構キャッシュストラクチャの非同期要求サービス時間(平均)[時系列]

【結合機構プロセッサ使用状況 [詳細]

このグラフは、結合機構のプロセッサ使用率の変動状況を示します。

